



穀田秋

~ 13  
4059  
1



4023

卷之二 續前

物外有東主之... 乃係見揚慶年... 物外富貴... 乃係見揚慶年...

目錄

註曰... 乃係見揚慶年...

38

49

49-2676

へ 13  
4059  
1

秋田秋生 秋生 芭之一



目錄

分類 3月  
巻 56(2)  
通番

一 秋生 石原 多美 為 秋生 秋生 芭之一  
一 秋生 石原 多美 為 秋生 秋生 芭之一



一 秋生 石原 多美 為 秋生 秋生 芭之一

形如字女新録の今之主の取厚  
雪

社田秋之物色之一

此作は多舟と唐同くお年毎危く守と

口御免徳唐守是如仍

常月去唐同法村の所法書の法作の中

今法源山候了石解の國主の唐しく羽衣社

甲の博主此作右より更なる親の定め事

ふせのしん所く知ぬるしは法新法成  
新羅之しりし編流りししりしりしりしり  
右のあしりし所しりしりしりしりしりしり  
右のあしりし所しりしりしりしりしりしり  
少将しりしりしりしりしりしりしりしり  
将弟官しりしりしりしりしりしりしり  
階か従位は少将弟官しりしりしりしり  
右のあしりし所しりしりしりしりしりしり

宮しりしりしりしりしりしりしりしり  
階國のしりしりしりしりしりしりしり  
中納言のしりしりしりしりしりしりしり  
年しりしりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしりしりしり  
右のあしりし所しりしりしりしりしりしり  
右のあしりし所しりしりしりしりしりしり  
右のあしりし所しりしりしりしりしりしり











岸の傍よりとて川原のそばに浮き位又と右  
地を度りてくるとある所及び伊豆の諸郡  
内へは毎年路をたすくは近頃せられた  
りし所より伊豆の諸郡の郡  
中へは是より路をたすくは近頃せられた  
びりてくるとある所及び伊豆の諸郡  
相手を度りてくるとある所及び伊豆の諸郡

とて伊豆の郡のそばに浮き位又と右  
地を度りてくるとある所及び伊豆の諸郡  
内へは毎年路をたすくは近頃せられた  
りし所より伊豆の諸郡の郡  
中へは是より路をたすくは近頃せられた  
びりてくるとある所及び伊豆の諸郡  
相手を度りてくるとある所及び伊豆の諸郡









此の如く其の如く一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

此の如く其の如く一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、







形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...

形似龍... 山... 龍... 龍... 龍...



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), spanning two pages of a notebook. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear, including some staining and discoloration. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), spanning two pages of a notebook. The text is written vertically from right to left on each page. The ink is dark and the paper is aged and yellowed. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The text appears to be a continuous passage or a list of items, though the specific meaning is difficult to discern due to the cursive nature of the script. The right page contains approximately 10 vertical lines of text, and the left page contains approximately 10 vertical lines of text.



家々之存は是れ一後継の事なり  
其部之諸部は其の如く信じて  
其主ありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く

の代所へ付しし事なりと云代  
今年義親の如く形はかゝる事なり  
百世の如く流石せし事なり  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く  
其の如くありし御利の部は其の如く

秋田松島物産志之二

目録

- 一 秋田藩年表
- 一 秋田藩の政治
- 一 秋田藩の産業
- 一 秋田藩の文化
- 一 秋田藩の教育
- 一 秋田藩の宗教
- 一 秋田藩の風俗
- 一 秋田藩の地理
- 一 秋田藩の歴史
- 一 秋田藩の人物
- 一 秋田藩の建築
- 一 秋田藩の美術
- 一 秋田藩の音楽
- 一 秋田藩の演劇
- 一 秋田藩の文学
- 一 秋田藩の科学
- 一 秋田藩の技術
- 一 秋田藩の交通
- 一 秋田藩の貿易
- 一 秋田藩の外交
- 一 秋田藩の内政
- 一 秋田藩の財政
- 一 秋田藩の軍事
- 一 秋田藩の外交
- 一 秋田藩の内政
- 一 秋田藩の財政
- 一 秋田藩の軍事



清江初平子產分多如家核移の

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



しと血固まきりてはあつては公途へ去れ  
しは仿布所経多し多思是れは若女なり  
粧しりて仿布を及字平生心可付は  
ありて何卒しとてしあふて終りありて  
神可あふたしとてし心経此心給てり名あり  
法信しりてりち屋問てり心ありてり  
如將しりてり若其人しとてあふのふ若  
而所まきりてり心ありてり心ありてり  
しりてり心ありてり心ありてり心ありてり  
招り心ありてり心ありてり心ありてり  
ましりてり心ありてり心ありてり心ありてり  
んしりてり心ありてり心ありてり心ありてり  
信りてり心ありてり心ありてり心ありてり  
しりてり心ありてり心ありてり心ありてり



主事... 昔は...  
... 知...  
... 或...  
... 夫...

... 守...  
... 乃...  
... 乃...  
... 乃...

平家不形あま 抄あまの 少なきに 世將  
取馬か 善陣よ 作氣頼力 之者い  
今りい 善日あま 作才の 約中あ  
彼あま 人あま 初く 抄中い  
か 善日あま 是取馬 之い  
い 善日あま 主あ 侍い 口い 勿い  
平家合 出侍い 下い 善日あ 燈い 出侍い

是取馬 侍い 一い 再い 侍い  
初い 善日あ 神い 出侍い 下い 善日あ  
そい 善日あ 取馬い 出侍い 約中  
知い 善日あ 善日あ 善日あ 善日あ  
善日あ 十倍い 善日あ 善日あ 善日あ 善日あ  
取馬い 善日あ 善日あ 善日あ 善日あ  
善日あ 善日あ 善日あ 善日あ 善日あ 善日あ







後、百幸の汚名を洗はれ、誠、能く  
遊ふと、満れ、所、く、幸、あ、き、る、存、心  
より、後、の、所、く、存、心、を、以、て、其、由  
命、即、ち、下、名、を、以、て、其、由、に、其、心、將、也、  
と、も、あ、る、程、也、固、く、し、ん、と、將、中、存  
心、を、進、ま、す、心、を、以、て、其、心、を、以、て、  
の、海、に、修、理、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、  
情、を、情、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、  
り、海、に、一、族、の、命、即、ち、其、心、を、以、て、  
其、心、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、  
其、心、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、  
其、心、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、  
其、心、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、  
其、心、を、以、て、其、心、を、以、て、其、心、





如の計りし人々も果てしなく今も好  
形好交りておぼろげに臨みよと果てしなく  
幸もあつた文海に福も心易くも  
如の計りし人々も果てしなく今も好  
臨みよと果てしなく今も好  
幸もあつた文海に福も心易くも  
如の計りし人々も果てしなく今も好  
臨みよと果てしなく今も好  
幸もあつた文海に福も心易くも

支那の事よ今も好  
幸もあつた文海に福も心易くも  
如の計りし人々も果てしなく今も好  
臨みよと果てしなく今も好  
幸もあつた文海に福も心易くも  
如の計りし人々も果てしなく今も好  
臨みよと果てしなく今も好  
幸もあつた文海に福も心易くも  
如の計りし人々も果てしなく今も好  
臨みよと果てしなく今も好  
幸もあつた文海に福も心易くも



しとわは... 日... 子...  
子...  
子...

乃... 柳...

於... 守...

去... 無...

乃... 乃...

乃... 乃...

或... 柳...

横... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...







しんぎのついでに... 神多事川... 神多事川... 神多事川...  
しんぎのついでに... 神多事川... 神多事川... 神多事川...  
しんぎのついでに... 神多事川... 神多事川... 神多事川...  
しんぎのついでに... 神多事川... 神多事川... 神多事川...  
しんぎのついでに... 神多事川... 神多事川... 神多事川...

今... 流... 有... 有... 有... 有... 有... 有... 有...  
今... 流... 有... 有... 有... 有... 有... 有... 有...  
今... 流... 有... 有... 有... 有... 有... 有... 有...  
今... 流... 有... 有... 有... 有... 有... 有... 有...  
今... 流... 有... 有... 有... 有... 有... 有... 有...



しん 徳在勲中より大衆の中へいん 徳有  
徳有年月の 以知く 徳よらぬる 徳  
厚し 自ら市くト 徳よらぬる 徳有  
何 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有  
用 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有  
しん 右の二と 徳よらぬる 徳有  
布 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有

徳有 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有  
しん 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有  
用 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有  
しん 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有  
布 徳よらぬる ト 徳よらぬる 徳有

許の何人巨勢千人加藤の御人  
あし進め長戸人治進り及ぶり  
後人ト云くありありと云く  
さし進く唐しと云く月し  
世屋由信格の仁多知事  
とく知事一果しと云く  
徳心しと云く是れと云く

秋田秋吉物徳老之之

月夜

一 秋田秋吉物徳老之之  
一 秋田秋吉物徳老之之  
一 秋田秋吉物徳老之之

新田村三物信光之

信光所著神皇正統記

新田村三物信光之  
御心之精日月之  
清行  
本



上  
新  
及  
正  
判  
釋

心  
及  
修  
心  
第  
一  
以







たてまつるはあはれなき

今も猶もたてまつるはあはれなき  
何事もあはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき  
何事もあはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき  
何事もあはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき

あはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき  
何事もあはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき  
何事もあはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき  
何事もあはれなきはあはれなき  
言ふもあはれなきはあはれなき





















秋田収多物結走之口

目錄

- 一 秋田収多物結走之口
- 一 秋田収多物結走之口
- 一 秋田収多物結走之口
- 一 秋田収多物結走之口

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including words like "Koban" and "Gin"]*

原野更見新秋之景

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

秋田秋高物候之記

原野信之智新之信守行時

秋の暮景物候之記  
 秋の暮景物候之記  
 秋の暮景物候之記  
 秋の暮景物候之記  
 秋の暮景物候之記



の祈り礼は月日あるは祈らん徳有る事  
まき親しくしりしは徳を待たふに女子  
多のしりしは徳を待たふに一は所  
のしりしは徳を待たふに一は所  
まき信意神を待たふに一は所  
徳を待たふに一は所  
下徳を待たふに一は所

しきねに思ひたれに平常持たふに  
何卒國の唐に一は所  
あはれに思ひたれに平常持たふに  
神社佛國の多徳に一は所  
鳥を待たふに一は所  
多のしりしは徳を待たふに一は所  
神佛此れに思ひたれに平常持たふに











此は海を舟に乗るに始りて

附右末更著親海軍、物

事よ申す、つれなき、情ありて

し、海軍の、友、此は海軍、多

、此、左、海軍、一、海、海軍

、海、海軍、海軍、海軍、海軍

、海、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍

海軍、海軍、海軍、海軍、海軍



まの古津打の如くはたし連れ来る婦書  
しつ所養<sup>ヤ</sup>何可あり並し心  
多量<sup>ヤ</sup>養<sup>ヤ</sup>何可あり思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
しつ<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
りつ<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
多量<sup>ヤ</sup>養<sup>ヤ</sup>何可あり思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
りつ<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
多量<sup>ヤ</sup>養<sup>ヤ</sup>何可あり思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
りつ<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>

ささし<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
の道<sup>ヤ</sup>さ<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
様<sup>ヤ</sup>し<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
何<sup>ヤ</sup>し<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
右の百<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
り<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
り<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>  
り<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>思<sup>ヤ</sup>何<sup>ヤ</sup>

















丁卯年五月

壬子六月

知王成

古物

求

弘舟

心錄  
細  
卷末